

第179回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催

好天の6月6日。俳句サロン「道草」は、「新橋ばる一ん」205号室で、開催されました。2階のロビーには今日も一番乗りをしました。やがて本間傘吉さんが登場され、その次には住田道人先生がご到着。次は原晶如さんが「今日は暑いですね」と、静かに顔を出されました。その後は皆さんが次々に……。本日のご出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、高瀬荻女さん、中島憧岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さんと芦尾白然の9名で、君塚明峰さんのご欠席は残念でした。そして、欠席投句でのご参加は、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、辻柴楽さん、中澤松女さん、船戸清助さんの7名の方々でした。

住田先生は、冒頭に「昨日、6月5日は老後を考える日、本日、6月6日は緑(みどり)の日です」と、話し始められて、66歳が「緑寿」としてお祝いをされることも教えて下さいました。丁度、66歳の方がいらっしゃったので、色紙に「いくつものトンネル抜けて緑寿初夏」と書き、お祝いをして上げたことも話して下さいました。色紙を贈られた方は、きっとお喜びになられたでしょう。そのこともあってか、本日の席題1.には、「緑」に関する「萬緑」が上がりました。提示されました三つの席題と、皆さんが詠まれ、皆さんが選句した天賞句と最多得票賞句(☆印)は、次の通りです。

席題1. 「萬緑」又は「緑」

- ◎『萬緑に埋もれて昏き切り通し』 傘吉
- ◎『萬緑に競いて鳥の声高し』 憧岳
- ◎『萬緑の土佐路歩みて蘇り』 蒼樹
- ◎『萬緑や湛水を待つ八ッ場ダム』 荻女

席題2. 「夏帽子」

- ◎『無造作に手に夏帽子男前』 白然
- ◎『夏帽子振ってみる高原の駅』 荻女
- ◎『颯爽と銀座を歩む夏帽子』 蒼樹

席題3. 当季雑詠の自由題句

- ◎『鳥唄ふ四万十の碧夏の雲』 蒼樹
- ◎『青梅の産毛光りし雨上がり』 幸佳(投句)

(道人の一句)

知事推すは傘兼用の夏帽子 住田道人

席題1. では、傘吉さんの句「萬緑に埋もれて昏き切り通し」が、天賞三つと最多得票賞(☆印)に輝きました。切り通しといえば、鎌倉が思い起こされます。木々の緑が深く狭くなっている道に覆いかぶさり、昏くなった切り通しの情景が見事に表現され、選者の琴線を鳴らしました。次に憧岳さんの句「萬緑に競いて鳥の声高し」が、天賞二つを獲得されました。この季節の森の中は、この句の中七、下五にある「競いて鳥の声高し」という表現が、ピッタリではないでしょうか。着眼点が光っていますね。もう一つ、蒼樹さんの句「萬緑の土佐路歩みて蘇り」が、天賞一つを獲得しました。この句は下五の「蘇り」に作者の全てが語られて、「良い旅をなさいましたね」というところでしょうか。荻女さんの句「萬緑や湛水を待つ八ッ場ダム」も、最多得票賞(☆印)を獲得しました。六月は水田といい、ダムといい、水が大切にされる季節ですね。

席題2. では、萩女さんの句「夏帽子振ってみる高原の駅」が、天賞一つを獲得しました。この句は中七、下五の「振ってみる高原の駅」が句またがり、夏帽子を振ってみたくなる高原の駅のイメージが選者の共感を得たのでしょう。白然の句「無造作に手に夏帽子男前」も天賞一つをいただきました。「さらりとしいる」表現が良いけれど、「下五」は不要とのこと。以後、注意します。蒼樹さんの句「颯爽と銀座を歩む夏帽子」が最多得票賞（☆印）に輝きました。銀座を颯爽と歩く夏帽子のイメージが爽快で、選者の胸に響いたのだと思われます。

席題3. の自由題句では、蒼樹さんの句「鳥唄ふ四万十の碧夏の雲」が天賞二つと最多得票賞（☆印）に輝きました。この句は唄う鳥と四万十川の澄んだ流れの美しさと、空に見える夏の雲が表現され、土佐への旅、四万十川辺りの景の大きさが、選者の共感を得たのだと思われます。もう一つ、最多得票賞（☆印）句があり、投句して下さった幸佳さんの句「青梅の産毛光りし雨上り」が、獲得されました。この句は中七の「産毛光りし」の表現が見事で、雨上がりの青梅の新鮮さをイメージさせてくれました。得票が集まった要因です。今回は7名の方が投句をして下さいました。これまでの最高記録ではないでしょうか。選外の句でしたが、栄女さんの句「斬バラで行く取てきの浴衣がけ」が、話題に上がりました。選者が一票を投ずるか否かを迷ったのが、「斬バラ」ではなかったでしょうか。「斬バラ髪」を「斬バラ」と言い切られたこと、これはこれで良いのかもしれませんが。相撲界では新米の弟子を「取的」と言い、日常は浴衣がけの生活です。そこに焦点を合わせた描写は、ハッとするほど新鮮でした。良かったと思います。

師匠芭蕉の言葉を、弟子の去来や土芳や支考が採り上げた「芭蕉百名言」の中に「言いおおせて何かある」というのがあります。句を詠んだ後、これを吟味する姿勢を言った言葉で、「余すところなく言い尽くしてしまって何か残るのか」ということでしょうか。本日の白然にいただいたご助言は、まさにこのことで、ぐさりと突き刺さる言葉でした。蒼樹さんも、同じことを思われたかも知れませんね。句から身を半歩退いて、吟味するとうか、見直してみることの大切さを感じました。

今日の二次会は、洋酒居酒屋ローズ&クラウン新橋店にお邪魔しました。いつものことですが、気がつけばお店のテーブルにはお客様が座っているという盛況ぶりでした。今日は珍しくも皆さんで円卓を囲みました。俳句サロン「道草」のこれからのこと、「元気に百歳」クラブのこと、ワイワイと賑やかに話が弾みました。来月もまた元気にお会いしましょう。

白然記